

令和5年度 府立桃山高等学校(全) 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
○文武両道・自主自律の校是のもと、学習と部活動の両立を図り、知・徳・体の調和のとれた創造性あふれる心豊かな人間の育成を目指す。 ○SSH3期目の指定のもと、SSHを本校の中核的な取組とすることで、教育活動の充実を図り、資質・能力「5C」(*)を身に付けた、次世代社会を創造し牽引するグローバルサイエンス人材の育成を目指す。 ○公立高校の中核校として、次代を担う人材の育成を図るとともに、府民の期待に応える学校づくりを推進する。 ○新学習指導要領を踏まえた教育活動を推進する。 *5C 本校では、グローバル化とサイエンスの発展が重要となる次世代社会において、国際的に活躍し得るグローバルサイエンス人材に必要な資質・能力を、以下の5項目として育成を目指している。 ①Critical thinking and problem solving (批判的思考力と問題解決) ②Creativity and innovation (創造力と革新) ③Collaboration (協働力) ④Communication (コミュニケーション力) ⑤Challenge (挑戦力)	(1) 「自主自律」ワンランク上の「文武両道」など、本校の特色や教育理念、またSSH3期目の指定校としての取組等を中学生・保護者に伝え理解を得て、前年度に引き続き、学習意欲が高く本校の様々な取組に高い関心のある入学生を迎えることができた。今後は、入学してきた桃山高校生・保護者の期待に応えるべく、これまでの成果の上に立った、さらなる高みを目指した教育活動を展開するとともに、さらなる学校の魅力発信に努めたい。 (2) SSH事業において、普通科・自然科学科ともにGS探究の充実が図られるなど、探究的な学びが進み、その成果が着実に次世代で活躍する人材としての資質・能力の育成につなげることができている。今後は第4期SSH指定獲得に向け、探究的な学びを学校の文化として定着させていきたい。 (3) 組織的な教科指導や進路指導の実施に努め、進路実現に向けて、学校全体で最後まであきらめない指導を行った。結果、国公立大学や私立の大学に、多くの生徒が現役合格でき、難関大学へも積極的にチャレンジしてくれた。今後は、生徒の学びの志向性にさまざまな刺激を与え、より高みを目指す進路目標にも積極的にチャレンジできるような組織体制を確立するとともに、生徒の意欲に火をつけ「主体的学習者」の育成につながるキャリア教育を継続していきたい。 (4) 新学習指導要領や新しい大学入試制度に対応するため、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善、記述力や英語の4技能の向上に向けた取組など、組織的に計画的に取組を推進することができた。今後は生徒の多様性に目を向け、ICTを活用しながら「個別最適化した学び」や「協働的な学び」を推進していきたい。 (5) コンプライアンス意識の低下による問題事象が発生したことを受け、さらに意識を高める取組を進めていきたい。	(1) 「主体的学習者」の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善、学びにおけるICTの利活用、生徒の多様性に目を向けた「個別最適化」した学習指導や「協働的な学び」について研究・実践を進め、桃山高校の学びのデザイン再構築を行う。 (2) より高みを目指す進路目標にも主体的・積極的にチャレンジできるような組織体制の確立や、生徒の意欲に火をつける学習・進路指導を継続して展開する。 (3) SSH3期4年目である今年度も、「資質・能力5Cを身に付けた、次世代社会を創造し牽引するグローバルサイエンス人材の育成」という目標を、教育活動全体に落とし込み、4期目指定獲得に向けて全校体制で実践していく。 (4) 生徒が主体的に「夢・感動・挑戦」の舞台を創り上げることができるような「学校行事」の検討や、生徒が自ら高みに挑戦することによって実現する「高いレベルでの文武両道」への仕掛け作りを行っていく。 (5) 教職員自身が桃山高校生にとってのロールモデルとなることを目指し、桃山高校働き方改革を進めるとともに、高いコンプライアンス意識をもった教職員集団を形成できるよう努め、生徒にとっても教職員にとっても魅力ある学校を作る。 (6) 学校外部の施設や人材をより一層活用することで、教育活動のさらなる充実と教職員の負担軽減に繋げる。

領 域 価	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評価		成果と課題
教 務 部	「主体的学習者」の育成のための教育活動 や授業改善の取り組みを支援する。	昨年度より導入された一人一台端末について、教育活動をより効果的に行うための教科指導や端末活用の工夫を教科を超えて共有するための取組を引き続き行う。	B	B	・探究Ⅰの授業公開において、全教員が1回以上参観することで情報の共有を図った。各教科で効果的なICT活用を考える機会にした。 ・現状について各教科から問題点は特に出していないが、日数が少ない中、確実に評価する方法を引き続き研究する必要性がある。
		観点別評価と評価のつけ方について、教科主任会議等を通じて共有し問題提起や提案を行う。	B		
生 徒 指 導 部	生徒が主体的に「夢・感動・挑戦」の舞台を創り上げることができるような「学校行事」の検討や、生徒が自ら高みに挑戦することによって実現する「高いレベルの文武両道」への仕掛け作りを行っていく。	生涯にわたってスポーツを楽しめる能力や態度を培う。 生徒会を中心に、生徒全員の創意工夫を生かした自主的な取り組みを行い本校のよき伝統を継承する。	A	B	・球技大会：種目を工夫・検討して実施し、生徒同士の良い交流の機会を確保することが出来た。 ・体育祭：島津アリーナ京都で、体育委員を中心に検討を重ね本校の伝統を継承することが出来た。 ・文化祭：5年ぶりに桃山高校の本来の文化祭を実施することが出来た。生徒、教員ともに様々な場面で課題もあったが、生徒の主体的な取組によって、素晴らしい文化祭を作り上げてくれた。 ・今後も長寿命化工事の影響は続き、来年度以降の実施形態・実施時期も熱中症予防の観点と3年生の進路実現の観点の双方からより良い時期等の検討が必要である。 ・部活動において、積極的参加を促し、加入率の向上と活動実績の広報活動を行った。当初の加入状況から微減、途中退部数の微増が課題といえる。
		生徒一人一人の自主性を養い、HR・部活動・生徒会の活動を充実させ、自主的集団として成長することを目的とする。	B		
		部活動への積極的参加を促し、加入率の向上と活動実績の広報活動を行う。	B		
進 路 指 導 部	より高みを目指す進路目標にも主体的・積極的にチャレンジできるような進路指導を展開する。	難関大学進学希望者に対してハイレベル模試を積極的に受験する働きかけを行うとともに、模試結果から浮かび上がる学習課題克服に向けて次取るべき具体的アクションを伝える事後指導の機会を設ける。	C	B	外部講師を招聘し、全学年難関大学進学希望者対象進路講演会（5月）、1・2年生医学部医学科進学希望者対象入試セミナー（12月）を開催し、難関大学合格に必要な心構えや自らが取るべき具体的アクションについて伝え、モチベーションを向上させることができた。オンライン座談会やハイレベル模試受験者に対する事後指導の機会については過密な進路行事の中、実施することができなかったため、学年部や各教科とより綿密に連携し、計画的に実施していきたい。
		学校外部の人材や卒業生を活用し、難関大学志望者対象の進路講演会やオンライン座談会を実施するなど難関大学受験に対するモチベーションを維持・向上させる。	A		
教 育 企 画 推 進 部	「主体的学習者」の育成に向けて、「個別最適化」した学習指導等を実践するために、ICT環境を整備し、利活用を図る。	ICT機器の整備を進める。教職員向けの研修会を実施したり、ICTの活用方法をこまめに共有することで、学校全体のICTリテラシーを向上させる。	B	B	・授業で使用しているタブレット端末の周辺機器の整備を進めた。また、授業や行事で使用するためのタブレット端末についても整理、整備を進め、必要なときにすぐに使用できる状態を整えた。 ・Classi、ロイノートなどの教員向け研修会を実施した。今後は、必要なときにいつでも必要な知識、技術を習得できるように、動画などを利用したオンデマンド型の研修も増やしていきたい。 ・Classi、ロイノートなどのアプリに関することや、タブレット端末、プロジェクターなどの機器に関するtipsを積極的に共有した。今後は、QAライブラリのような形で、各自いつでも参照できる環境を整えていきたい。
	本校を第1志望として選択してもらうよう、広報活動をより充実したものにする。	説明会や学校案内の内容などの見直しを行い、より本校の魅力を伝えることができるよう改善する。ホームページ、公式YouTubeチャンネルを充実させる。			
	「資質・能力5Cを身に付けた、次世代社会を創造し牽引するグローバルサイエンス人材の育成」という目標を教育活動全体に落とし込み、SSH3期4年目の事業を全校体制で実施する。	SSH3期申請内容に基づいて令和5年度事業計画の取組を実施し、効果検証と成果普及を行う。 また、SSH第4期の申請を見据え、職員会議での報告や探究通信の作成等により教職員全体へのSSH事業の周知を行うことで、全校体制でのSSH事業推進をさらに進めていく。	B		・SSH3期申請内容に基づき、令和5年度の事業を予定通り実施することができた。GS探究Ⅲについては、昨年度の実施内容に改善を加え、受験を迎える生徒に対して学習だけではなく様々な視点から物事を見ることや他者との意見交流を通して自身のキャリアについて考える取組を確立することができた。また、中間評価での指摘事項の改善に取り組んだ。 ・年度当初や2学期の研修会、探究通信「辿」など、SSH事業について教員や生徒へ周知する取組を充実させることができた。 ・令和6年度のSSH第4期申請を見据え、分掌内外との意見交換を経て第4期の事業案を作成中である。

領 域 価	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評 価		成 果 と 課 題
保健部	特別支援教育を含む生徒の多様性に適応できる学校環境の整備	学校不適応を含め心身共に課題を抱える生徒の学校生活への適応を支援する。	A	A	・スクールカウンセラーと共に養護教諭による心身の不調を訴える生徒のカウンセリングに努めた。今後は、増え続ける対象生徒に対して、対症療法的な指導ではなく原因療法的で予防的な指導法を考える必要がある。 ・特別支援教育の個別支援について、今まで特に決められた会議が設定されていなかったが、適応対策会議の場で情報共有ができるようになった。さらに今後は、特別支援教育コーディネーターと保健部・教務部が連携して、小教科担当者会議のような情報共有の場の設定を機動性と柔軟性をもって実行していくことが求められる。 ・職員会議で『桃山高校のユニバーサルデザイン化』について提案すると、視覚化・構造化に向けて多くの先生方の協力が得られた。この提案により、生徒と教員のストレスを軽減し、活き活きとした学校生活が送れる環境づくりの定着が望まれる。
		特別支援教育の個別支援を要する生徒について、必要に応じて適応対策会議の場で状況等を共有する。	A		
		学習環境のユニバーサルデザイン化を進める。	A		
図書部	「5C」を身に付けた人材の育成、「主体的学習者」の育成に必要な桃山高校の「学び」を探究する。	図書委員による自主的、積極的な図書館運営（班活動、読書月間における各種行事の立案と実践など）を行う。	A	B	・図書委員は主体的に図書館運営にかかわり、図書館利用推進に努めたが、来館者数は昨年度並みにとどまった。今後さらなる活動の発展に努めたい。 ・図書館外での発信力を上げるべく、来年度はSNS等の活用を視野に入れたい。 ・「5C」を身につけた生徒の育成に向けて、図書の充実・読書活動の啓発に努めたが、まだ改善の余地がある。
		課題研究をはじめとする各授業での図書館の活用や、教職員の図書推薦などの様々な仕掛けを試みる。	B		
		「5C」に関する図書を充実させるとともに生徒に向けて紹介する。	B		
第1学年部	桃山高校での生活を通して、主体的、自律的に行動できる生徒を育てる。	ホームルームや面談などを通じて、個々の生徒の特性を把握し、個別最適化した、学習指導、生活指導を継続的に行うことを目指す。	B	B	将来の進路目標や系・科目選択、学校生活について三者面談・個人面談を実施した。また定期考査だけでなく、学習面、学校行事、ホームルーム活動等の記録をつけることで振り返りと課題発見の機会とした。またホームルームで進路学習を行い、今後の入試がどのように変わるのかを学び、進路について考えるきっかけとした。今後各自が進路についてさらにリサーチを進め、具体的な目標を見つけ、主体的に学校生活を送ることが課題である。
		手帳やポートフォリオを活用し、具体的な学習計画や行動計画を立てさせるとともに、常に振り返りをさせ記録を残すことを習慣化させることで、次の行動へとつなげていくことを目指す。	B		
第2学年部	生徒それぞれが自分の良さや個性に気づき、資質、能力を自らの力で伸ばすことができるよう、何事にも全力を尽くし、最後まで諦めずにやり抜く力を育む。	ホームルームや個人面談など、あらゆる教育活動の場面で、生徒集団や個々の生徒とのコミュニケーションを継続的に図り、学習や部活動、学校行事等に対し、主体的、意欲的な態度で取り組むことができるよう指導する。	B	B	定期考査や学校行事の前後など、学校生活の節目となる場面で、個人面談やホームルームでの活動を通して、学習面や日常生活について、効果的な指導を実施することができた。この成果を進路指導が中心となる3年時に活かすことが課題である。
第3学年部	人とのつながりを大切にし、協働して取り組むことで共に成長し合える集団を作る。生徒の学習意欲に火をつけ、最後まで粘り強く学び続ける集団づくりを行う。	各担任は生徒たち1人ひとりの気持ちに寄り添い、主体的学習者である生徒たちの成長を促す。学級や個々の生徒の状況を日常的に交流・共有し、複数の教員が多角的に生徒と関わる。	B	B	・各担任がそれぞれの生徒に対して、日常的に対話の機会を作り、適切な時期に丁寧な個人面談を行うなど、効果的な生徒指導や進路指導を行うことができた。 ・進路指導部をはじめ他分掌と連携しながら、日々の生活指導や進路指導を進めることができた。 ・学年会等で意見交換した内容を各担任がホームルームに反映するなど、生徒・教員間で情報や価値観を共有しながら、教育実践を進めることができた。
		GS探究Ⅲ、LHR、学年集会、学校行事、学年通信等を運動させ、個々の生徒の見方・考え方を学年全体で共有し、学年/学級集団への帰属意識を高める。価値観の多様性に気づききっかけを作ることで、学年/学級集団がさらに成長するための機会とす	B		
		生徒たちの進路実現に向けて、進路指導部や教科担当者との連携を密にして、主体的に進路選択ができるような指導を充実させる。特に生徒たち自身が自らの成長を期待して粘り強く学び続けられるように学習行動を促す。	A		
事務部	分掌、教科と連携し、予算を効果的に運用するとともに、行政的な視点から教育活動を積極的に推進する。	生徒、教職員の安心・安全に向けた施設・設備の整備・充実を図る。	B	B	・校舎等の不良箇所について、分掌等と連携した修繕、改修が概ねできた。ただし、雨漏り等老朽化による突発的な修繕も多く、未然に防ぐ対応を今後検討していきたい。 ・Classiを活用した通知や案内、改修工事のお知らせ等を積極的に発信できた。 行政的な視点からの教育活動への参画は今後も推進していきたい。
		ICTを活用した学校運営、教育活動の推進、長寿命化改修工事の円滑な調整、教科指導や学校行事等の充実を図る。	B		

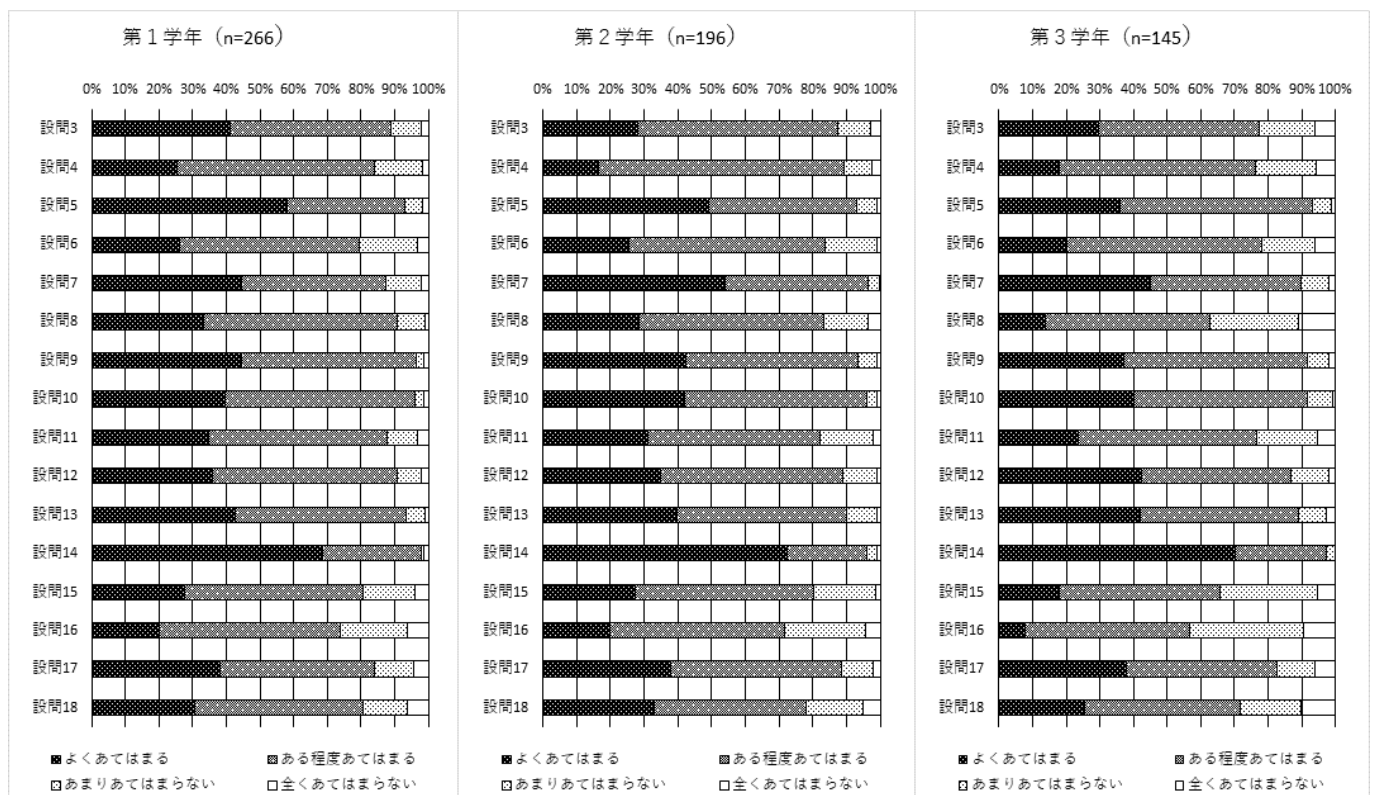
領 域 価	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評価		成果と課題
国 語	国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を育成する。	「主体的学習者」の育成を目指して、「個別最適化した学び」や「協働的な学び」についての研究や実践を進め、ICT教材を活用した授業スタイルを模索する。	B	B	ICT教材の活用については、意見交流やグループワークの際にロイロノートやTeamsを効果的に活用した。個人の興味・関心や意見をクラス全体で共有し、主体的に学びを深めていくきっかけとすることができた。共通テストの過去問題の分析や新傾向問題の情報を教科内で共有しながら教材の選定を進め、授業の展開を工夫した。全学年で一人名端末が実現する次年度は、三年間を見通した系統的な活用計画を考えつつ、国語力のさらなる育成を図ることが課題である。
		新学習指導要領や新しい共通テストについて研究を進め、生徒の国語力育成に還元すべく、教科内で情報を共有する。	B		
公地 民歴	興味・関心と学習意欲を高め、自ら学ぶ力、考える力を育成する。	板書、プリントを充実させ、資料（写真、統計、史料等）や視聴覚教材を有効に活用する。	B	B	板書、プリントを充実させ、資料（写真、統計、史料等）や視聴覚教材の有効な活用に努めた。今後も更に効果的な教材の共有を進めていきたい。 電子黒板のより効果的な活用のために情報交流に努め、ICTを活用した授業の構築に取り組んだ。今後も各教員が各自の課題改善に向けた研修を続けるとともに、教科としてのICT教材の充実を図っていきたい。
		ICTを活用した授業や「協働的な学び」を意識した授業を研究・実践し、「主体的・対話的で深い学び」による思考力・表現力等の育成を図る授業改善に取り組む。	B		
数 学	学習意欲の向上を基盤にした主体的学習者の育成を目指し、探究活動との連携を図り論理的思考力の獲得を通して、実践問題に積極的に取り組む態度を養成する。	小テスト、定期考査、模擬試験の到達度目標を早期に提示することで、学習計画の作成を習慣化させる（手帳およびチェックシートの活用）。目標へ向けた取り組みの過程においては、個々の生徒の学習方法等を生かすように工夫する（個別最適化）。また、習熟度の高い生徒向けには数学検定を中心として、数学オリンピックや数学コンテストへの参加を促し、授業とは異なる観点で数学に触れる機会を増やす。	A	A	・チェックシートの提示・活用により、生徒達の小テストや定期考査、模擬試験の目標設定や学習計画を立てて取り組む姿勢を促した。 ・数学検定を2回実施し、1回目は88名が受検し、2回目は74名の申し込みがあった。 ・数学オリンピック予選会には15名が申し込み、参加した。 ・1年生自然科学科では、夏に神戸大学数理・データサイエンスセンターの第3回中学生・高校生データサイエンスコンテストに全員参加した。 ・ICTの活用として、ロイロノート・Teams・エスビューア・Libry・Geogebraなどを適宜利用した授業展開を行った。 ・数学の授業を深める工夫や手立てについては、概ね目標を達成できた。 ・ICTの授業における利用については、今後も研究・実践する必要がある。 ・新学習要領による指導計画や評価については、継続して教科内で検討し、よりよいものにしていく。
		深い学びにつながる発問の仕方や視覚的教材の利活用を今年度も継続して検討する。また、提出されたレポートや記述形式の添削課題を、ICTを利用することによって生徒間での共有を図り、探究活動を通して学びを深め、数学的、論理的思考力を洗練させる。	A		
		新学習指導要領実施2年目を踏まえ、指導計画や評価（従来の評価と観点別評価）の整合性について昨年度の実施を基に改善点など教科内で検討し確立する。	B		
理 科	基礎的な知識・技能を習得し、見通しを持って主体的に学習に取り組み、日常生活を科学する学習者を育む。	思考力・判断力・表現力を育めるような実験・実習を行う。	B	B	・コロナ禍も明け、実験を多く入れることができた。今後は、今までをもとにさらに発展させたい。 ・本年は観点別評価導入の2年目である。未だ、有効に利用できてはならず、課題が残っている。 ・本年は授業を全て見学可とした。教員同士で互いに見学を行い、共有することができた。
		観点別評価法をさらに研究し、「指導と評価の一体化」の観点から、授業改善を行う。	B		
		教材や授業を教科内外へ公開し、共有する。	B		
保 健 体 育	体育・保健の見方・考え方を働かせて課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。	具体的な知識と汎用的な知識とを関連させて理解できるようにするとともに、科学的知識を基に技能を身に付けることでその理解を一層深める等、知識と技能を関連させて指導する。また、1・2年生の授業においては、技能の向上に向け、ICTの有効活用を積極的におこなっていく。	A	B	・体育においては、具体的な知識を与え、グループワークや振り返りシートを活用し、技能の向上を図った。特に今年度は、1・2年生の授業においてICTの有効活用ができ、知識の理解とともに、技能の向上にも一定の成果を上げることができた。 ・ICTを活用した保健授業を展開し、自ら課題を発見し、解決に向けた思考・判断力や発表活動を通して他者に配慮しながらも自らの健康について主体的に考える力を身に付けさせた。 ・体力の向上を重視し、健康や体力の状況に応じて自ら体力を高める方法を身に付けさせた。 ・実社会でも生かせるように、個々に応じた体力の向上や生涯にわたる心身の健康の保持増進のために運動を継続的に取り組ませることが課題である。
		自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的に解決することや、新たな課題の発見につなげたりすることができるよう知識を活用や応用により、思考・判断したことを、根拠を示したり他人に配慮しながら、言葉や動作などで即座に表したり、図や文章及びICT機器等を活用して筋道を立てて伝えることができるよう指導する。	B		
		愛好的態度及び健康・安全、公正、協力、責任、参画、共生について、汎用的な知識を関連させて指導することで、主体性を促し、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力を育成する。	B		

領域 評価	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
芸術	音楽：学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導の徹底を図るとともに、本校生徒の実態に即した授業展開の工夫に努める。	主体的に音楽に関わり、感受する力を育成するため、表現、鑑賞のそれぞれの学習内容について、批評活動を積極的に取り入れる。	B	B	相互発表等の活動を積極的に設定し、表現、鑑賞の各分野で一定の成果を収めた。一人一台端末の活用については、授業記録や実技活動の動画提出などを行ったが、電子黒板等が未整備であるため、活動成果の共有などに生かしていないことが課題である。
	美術：新学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的に学習する生徒の育成に向けた授業となるように努める。	作品の校内展示や学校の諸活動と連携した取り組みを進め、美術やデザインと社会の関係性について考えたり、客観的な視点で自分の表現を見つめさせる授業にする。	B		具体的な方策を実践するにあたって「コロナ禍」と「抽象」をキーワードに年間の授業を計画した。コロナ禍の中起こった様々な社会課題を振り返り作品化することで、人権の問題について考えたり、具体的な事象から普遍的な問題意識を抽象化したりする観点が育まれた。
	書道：書に親しむ活動を通して、感性を高め、書写能力の向上を図り、主体的な学習者の育成に向けた授業展開を行う。	基礎・基本を身につけ、「表現」、「鑑賞」の学習内容に、批評活動を積極的に取り入れた授業展開を行う。	B		「漢字の書」「漢字仮名交じりの書」「仮名の書」に加え、「篆刻」の制作を実施し、選択者全員で押印した合作を作成した。各分野において積極的に批評を取り入れた。電子黒板等が未整備であるため、個人端末とリンクした効果的な学習に結びついていないのが課題である。
英語	英語学習における「主体的学習者」を育成する。	授業、家庭学習を通して、主体的に英語力向上に取り組めるよう、ICTを効果的に活用するとともに、1年間の学習計画と効果的な学習方法を明確に示す。	A	A	・生徒が主体的・自主的に学習計画を立てやすいように、小テストや週末課題の年間計画を学期当初に配布することができた。 ・ICTを効果的に活用することで、生徒の活動量を増やすことができた。 ・1,2年生のパフォーマンステストでは、暗唱だけでなく、即興でのやりとりを取り入れることができた。 ・個人端末をより日常的に使用し、生徒の思考や様々な活動をより効果的に深化していくために試行錯誤していく必要がある。 ・「話すこと」のうちの「発表」については従来から継続的に取り組むことができていたが、新たに分類された「やりとり」に関わるパフォーマンステストや活動については、全学年で段階的・体系的に実施できるような計画を考えていく必要がある。 ・適切な家庭学習課題内容や量の設定を、継続的に検討していく。
		教員による解説を簡潔にし、ペア・グループワーク、パフォーマンステスト等を通し、生徒の英語の発話量・読解量・活動量を増やす。	A		
		パフォーマンス課題をさらに推進し、自己表現や学習成果のアウトプットの場として生徒が主体的に取り組む、英語を使う楽しさを感じられるようなパフォーマンス課題の仕組みをつくっていく。	B		
家庭	人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を総合的に習得させ，家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに，生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	講義や実習・実験を通して，家族の健康と衣食住についての知識を身につけさせ，実践する力を育てるように指導する。清潔に衣服を管理し，時には取れたボタンをつけ補修する程度の力を育てるため，被服製作実習を取り入れる。	B	B	・食生活分野では、高校卒業後の生活の中で朝食の欠食が増加する現状と問題点や、中食を利用する際の注意点など、一人暮らしと食生活の課題を考える時間がとれた。調理実習の実施はできたが、供食を避けるためのメニューとなり、調理技術を身につける方法に課題が残る。 ・経済分野では成年年齢が18歳に引き下げられたことから、家計（収入と支出）の構成や、契約に関してなど、成年として生活する権利と責任について理解することができた。契約をめぐる困ったことが生じた際対応など、動画を通して学習しイメージができた。 ・被服製作では、①「並縫い」「半返し縫い」「本返し縫い」「まつり縫い」「ボタンつけ」をするのは、これからミシンを持たない一人暮らしでズボン等の裾がほつれた時シャツのボタンがとれた時など、自分で直す意識を育てるため「壁掛けティッシュケースカバー」を作製した。結果として、ほとんどの生徒が非常に積極的に取り組むことができていた。 ・保育分野では、赤ちゃん人形を使用し子どもを抱くときの注意点を体験することができた。また、遊びを通して乳幼児の発達を知ることができた。今後の課題として保育体験が実施可能であれば、体験をすることで、理解を深められる。
		消費生活について，経済のしくみを理解し，生活を管理できるように指導し，ロールプレイなどを行い，消費行動が環境問題に関わることの理解を深める。18歳成年年齢となり，消費トラブルに巻き込まれないように，動画やICTを利用しながら巻き込まれた時の対処方法なども身に付けさせる。	B		
		乳幼児と高齢者の生活や福祉についても，ライフステージごとの心身の変化を「シニア体験」「マタニティー体験」実習により理解を深める。	B		
情報	新学習指導要領の確実な実施と、ICTの効果的な活用をめざして教科としての役割を果たす。情報教育を通して学びの自己調整能力を養い、生徒の実践的な情報活用能力を育てる。	一人一台端末と校内のコンピュータを連携させて学ぶように設計した実習を取り入れる。	B	B	・生徒の端末とコンピュータ教室のPCとを機能的に連携するには至らなかった。 ・学習が進んだ段階では統計分野等で生徒がテーマを設定して、取り組む学習内容となったが、初期の段階では、知識や技能の習得が中心となった学習が続いた。今後は、各分野で生徒の活動が中心となる学習を進める工夫を重ねる。
		パフォーマンス課題実施し、観点別評価にも活用する。その際、生徒一人ひとりの主体的テーマ設定が可能になるよう工夫する。	B		
グローバル サイエンス	探究的な学びを通して、予測不能な時代を生き抜くために必要な資質・能力「5C」の育成を図る。また、SSH四期目取得に向け、様々な実践を学校内外に発信し、探究的な学びを学校文化として定着させる。	GS探究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して、3年間の探究的な学びのストーリーを生徒、教員、保護者が実感できるように、探究通信等を用いて情報発信する。また、複数の教科担当者がスムーズに実践できるよう、GS科目の位置づけや教科担当者の役割を	B	B	・桃山高校としての探究ⅡⅢの文脈を設定し、授業担当者会議、校内研修、探究通信等を通して発信することができた。SSH四期目に向けて、GS探究Ⅲの授業を複数人体制で実施することができた。 ・SSH四期目に向けたカリキュラムの検討と作成、探究的な授業実践のさらなる蓄積およびGS探究の授業経験者を増やしていく必要がある。また、各教科・分掌との協力体制、教員同士の連携を深めていく方策を検討していく。
		GS探究Ⅲにおいて、これまでの探究活動の成果を生徒が実感できるような授業実践およびカリキュラム開発を行う。	B		
		授業内容および評価の方法を改善しながら、SSH4期目における探究学習の在り方（目指す生徒像や具体的実践内容等）について、校内で意見交換会を設定するなどして検討を進める。	C		

学 校 関 係 者 評 価 委 員 会 に よ る 評 価	・学校経営計画に沿って順調に教育活動が進められている。 ・SSHを一つの軸として教育活動の質を高められている。 ・保護者対象の学校評価アンケートの結果を見ると、学校の実施している教育活動の内容を十分に広報できていないのではないかと感じる。ホームページやSNS等を活用し、在校生の保護者や、志望校を検討している中学生・その保護者に対して、さらに情報提供に努めることが今後求められるのではないか。 ・学校美化、教育環境の整備という面においては、長寿命化工事は大きく評価を下げる要因となっていると考えられる。今後とも安全かつ速やかに工事を進めていただきたい。 ・在校生の出身地域が広がり、卒業生の進学先も全国各地に拡大する中で、PTAや同窓会の学校支援の在り方も再検討する必要がある。学校と連携して進めて欲しい。 ・教育活動を一定の教育水準を確保しながら継続してゆくために、教員の人材確保は喫緊の課題であり、その実現にあたっては教員の働き方改革は大きな意味を持つのではないか。
次 年 度 に 向 け た 改 善 の 方 向 性	・スクールミッション、スクールポリシーに沿って教育活動を行い、その活動の内容を学校内外に広報することで、関係者に学校教育活動の支援を求めるとともに、志願者の拡大やその学校理解に繋げる。 ・より一層PTA、同窓会等の学校教育関係諸団体と連携をとることで、教育活動の充実を図る。 ・長寿命化工事を学校安全や教育環境の整備に留意しながら、円滑に進める。

令和5年度 生徒アンケート結果

- 設問 3 本校では、SSH 事業を含め、特色ある教育活動が行われている。
- 設問 4 本校は、分かりやすい授業を工夫し、生徒の学力向上のために積極的に取り組んでいる。
- 設問 5 本校は、部活動が活発に行われている。
- 設問 6 本校は、ホームルーム活動や生徒会活動が充実している。
- 設問 7 本校は、学校祭(文化祭・体育祭)、研修旅行などの学校行事が充実したものになっている。
- 設問 8 本校の生徒は、遅刻・欠課や授業態度の点で、規則正しい学校生活が送れている。
- 設問 9 本校の生徒は、頭髪や制服の着こなしにおいて、学校のルールに従った行動ができています。
- 設問 10 本校の生徒は、挨拶や正しい言葉づかいができています。
- 設問 11 本校の生徒は、登下校時、交通安全を意識した行動がとれている。
- 設問 12 本校は、進路ガイダンス等を通して、進路に関する情報が効果的に提供されている。
- 設問 13 本校は、進路補習や進路面談、模擬試験などが充実しており、進路希望実現に役立っている。
- 設問 14 本校は、いじめや暴力などがなく、人権が守られ、安心して通うことのできる学校である。
- 設問 15 本校は、清掃などが行き届き、落ち着いた教育環境である。
- 設問 16 本校は、教育活動への効果的な ICT 活用がなされている。
- 設問 17 桃山高校に入学して良かったと思っている。
- 設問 18 桃山高校生であることに誇りを感じる。



令和5年度 保護者アンケート結果

- 設問 3 本校では、SSH 事業を含め、特色ある教育活動が行われている。
- 設問 4 本校は、分かりやすい授業を工夫し、生徒の学力向上のために積極的に取り組んでいる。
- 設問 5 本校は、部活動が活発に行われている。
- 設問 6 本校は、ホームルーム活動や生徒会活動が充実している。
- 設問 7 本校は、学校祭(文化祭・体育祭)、研修旅行などの学校行事が充実したものになっている。
- 設問 8 本校の生徒は、遅刻・欠課や授業態度の点で、規則正しい学校生活が送れている。
- 設問 9 本校の生徒は、頭髪や制服の着こなしにおいて、学校のルールに従った行動ができています。
- 設問 10 本校の生徒は、挨拶や正しい言葉づかいができています。
- 設問 11 本校の生徒は、登下校時、交通安全を意識した行動がとれている。
- 設問 12 本校は、進路ガイダンス等を通して、進路に関する情報が効果的に提供されている。
- 設問 13 本校は、進路補習や進路面談、模擬試験などが充実しており、進路希望実現に役立っている。
- 設問 14 本校は、いじめや暴力などがなく、人権が守られ、安心して通うことのできる学校である。
- 設問 15 本校は、清掃などが行き届き、落ち着いた教育環境である。
- 設問 16 本校は、教育活動への効果的な ICT 活用がなされている。
- 設問 17 本校では、学校の教育活動や生徒の様子が保護者に知らされている。
- 設問 18 保護者として、子どもが桃山高校に入学して良かったと思っている。
- 設問 19 保護者として、子どもが桃山高校生であることに誇りを感じる。

